

代弁は1歳以降も大事！

～何かを伝えたいために泣く～

赤ちゃんは何か不快なことがあると、それを伝えるために泣きます。言い方を変えると、何か伝えたいことがあるから泣くのです。私たちはなぜ泣いているのかを想像して言葉にしてあげる＝代弁してあげましょう。「おしっこでたね」「おなかがすいたね」「あつかったね」等、言葉にすることで、赤ちゃんはそう言えばよいのだと吸収することができます。これが言語教育になります。

1, 2歳くらいになっても子どもはよく泣きます。その時に代弁することで、その感情を言葉でどうやって表現すればよいのか伝えることができます。私たちは何か嫌なことがあったときに、泣くのではなくその嫌なことを解決するために言葉で伝えます。子どもも自分の感情をコントロールし、自分の思いを言葉で表現できるようになると、泣くのではなく徐々に話すという手段で伝えることができるようになります。



ここがポイント！

代弁は子どもの気持ちを想像するので、自然と子どもの気持ちに寄り添うことができます。共感してもらえたと感じると、子どもは落ち着いて生活することができるので代弁はおすすめです！

